金

金ハ目下ラウブニ採堀權ヲ有スルラウブオーストレーリアン採金會社ニヨリテ採堀サレ居ルノミナリ。

ラウブノ金鉱ハ既ニ三十有余年間採堀サレテ本テ其ノ深サ約九五ヽ呎ニ達ス。

今產金高及輸出高ヲ表示スレハ次ノ如シ。

年次	ラウブ金山產額	再米邦全產額計	輸出額
一九二六年	一二、九八一オンス	一四、四七五オンス	一二、一一五ポンド
一九二七年	九、九一九	一一、七五八	九、七九〇
一九二八年	一六、八一五	一八、六九三	一八、三三一
一九二九年	二三、三〇三	二六、七八二	二一、八五一
一九三〇年	二四、〇一二	二九、五九七	二二、一八二

出所ハ南洋年鑑

鉄

馬来半島ヨリ輸出スル鉄鉱ハ、ジヨホール及トレンガヌニ於テ邦人経営ノ石原産業公司及日本産業会社ニ依ツテ採堀サレ居ル。

石原産業公司ハ一九二〇年我國ニ鉄鉱供給ノ端緒ヲ開イテ以来年々産額ヲ増

加シ、一九二七年五二一、一四一瓲、一九二八年八一〇、三六九瓲、一九二九年九一九、六二七瓲、一九三〇年九二七、一七八瓲ヲ我國ニ輸出シ、殆ンド全部ヲ八幡製鉄所ニ納入ス。同公司ノ鉄山ハ半島唯一ノモノニシテ、品質五五%以上ノ良鉱ナリ。且ツ鉱区ハ搬出便利ノ地ニアリ、労働者

ノ不足モナク、現在有利ニ経営シ居ルモ
鉱量ハ余リ多カラズ。
鉄鉱ハ対日輸出貿易中護謨、錫ニ亜ギ
羊ニヨリ異ルモ大三位又ハ才四位ヲ示
メテヰル。

(四) 其他

以上ノ外英領馬来ニ於テハ、タングステ
ン及石炭ガ僅カナガラ採堀セラル。

以上全ク英領馬来ノ鉱業労働者ノ数ハ
不明ナルモ、現在鉱山ニ於テ労働ニ従事シ
居ル労働者ノ九割強ハ支那人ニシテ、残余
ハ印度人真末人等ナリ。

(五) 水産業

馬来半島ヲ囲繞スル広大ナル浅海ハ殆ンド総テ百尋線以内ノ漁場ナリ。而モ此ノ方面ノ漁業タルヤ主トシテ土人ノ漁業ニシテ未ダ以テ甚ダ幼稚ノ域ヲ脱セズ、土人個人ノ小漁船ニ依リ行ハレ居ルニ過ギズ。

従ツテ漁場カ本土ヲ距ルコト二十哩以上ニ及ブ事ハ殆ンド稀ニシテ、広漠タル浅海ノ大部分ハ全ク試験モサレズ、従ツテ漁獲ヲ行ハザル状況ナリ。

海峡植民地、馬来聯邦ヲ通ジテ漁業ニ従事スルモノノ数ハ二万八・〇〇二人ニシテ、内馬来人一三、八五三人、支那人一二、八九一人印度人五三〇人日本人七一八人、葡萄牙人八〇人ナリ。

而シテ漁船總數ハ支那人ノリングネツトジャンク九隻及日本人ノ所有船七九隻ヲ除キ一二、九二五隻ニ上ル。

只此ノ間ニアツテ邦人漁業ノ発展ハ著シキモノアリ。邦人漁業家ハシンガポールヲ根據地トシテ從来ノ漁場カリモン海及リオー群島ヨリ遠ク赤道ヲ越ヘ、スマトラノリンガ群島、シンケツプ島附近ヨリ、バンカ海峡入口近ク迄出漁シ、東ハ馬来半島東岸ノ支那海ヨリ仏領印度支那沿岸、暹羅湾等六、七百海里ノ地点ヨリ、西ハマラツク海峡、スマトラ沿岸ヨリ印度洋ニ面セル、メルグイ群島ニ至ル広大ナル地域ニ活躍シツヽアリ。

人口四〇萬ヲ有スルシンガポールハ其ノ七割余ガ支那人ニシテ、馬来人、印度人等モ多ク、概シテ住民ハ副食物トシテ魚食ヲ好ミ、鮮魚ノ需要頗ル大ナリ。而カモ此ノ鮮魚ノ約半数ハ邦人漁業者ニ依ツテ供給サレテヰル現状ニシテ其ノ勢力ハ実ニ大ナルモノアリ。

近来土人漁業モ邦人漁業ノ発達ニ連レ、幾分刺戟セラレルモ、幼稚ナル技術ト無資本ニ近キ彼等漁業者ニ依リテハ斯業ノ発達ヲ期スルコトハ到底困難ナルタメ、邦人漁業者ノ発展地トシテハ実ニ恰好ノ地ナリ。

従来、東海岸ノ漁業ハ北東季節風ノ到来ト共ニ不漁トナルモノナルモ、然シ動力ヲ

使用スル漁船ヲ以テスレバ一年中継続シテ漁獲ヲ行フ事ハ些モ困難ナル問題ナラズ。從ツテ漁業上最モ必要ナルコトハ肉体労働ヲ動力ニ代ヘルコトナリト云ハル。

英領馬来近海デ捕獲セラレル魚類ハ数百種ニ達スルモ其ノ主要ナルモノハ鰆・イカパラン・鯵・鰹・鮪・鰹・鯛類・鰐・魴・石首魚・鯢・鰡・太刀魚・鰯類・鱝・鱶・蝦・烏賊・蟹等ニシテ其種类モ亦多シ。

(六) 工業

英領馬来ニハ農業・鉱業ニ関聯セル家内工業及護謨・錫ノ如キ物産ノ輸出向加工工場ノ外、工業トシテ取立テテ云フベキモノナシ。最近護謨精製工場ノ設立ヲモ見ルニ至リシモ、英領再来ガ工業國トシテ立ツニハ前途尚遠遠キナリ。

現在工業トシテ挙ゲ得ラルルモノニハ、鳳梨罐詰業、錫精錬業・燐寸、護謨工業・籐細工・鞣皮製造業・機織業及其ノ他家内工業アリ。

八　商業及貿易

英領馬来ノ主要輸出品ハ、錫並ニ熱帯農産物ニシテ、輸入品ハ精製品ヲ主トス。

錫ハ半島内ニ産出サレル錫鉱ノ殆ンド全部及蘭領印度ニ産スル錫鉱ノ大部分、更ニ濠洲其ノ他ノ地方ニ採堀サレル錫鉱ニ至ル迄何レモ夫等ハ、新嘉坡、彼南、ニ輸送サレ、其処ヂ精錬ノ上輸出セラル。更ニ護謨ニ至ツテハ領内産ノモノハ勿論サラワク、印度及緬甸、英領北ボルネオ、蘭領印度、其他各地ニ生産スル護謨ノ大部分が新嘉坡ニ於テ集散ス。尚此ノ外コプラ、土人ノ主食タル米、護謨園並ニ錫鉱山等ニ使用スル機械類及各種ノ金属製品類、其ノ他英

領馬来ニ多量ニ需要セラルヽ絹、綿絲布
及其他ノ製品等ノ大部分ハシンガポール
及ピナンヲ通ジテ取引セラル。
海峡植民地ノ各港ハ煙草、酒、石油等ノ輸
入品ヲ除キ何レモ自由港ナリ。
シンガポールハ半島人勿論全東印度群
島ニ於ケル貿易ノ中心地ニシテ、其ノ範囲
ハ東方支那、日本、亜米利加ヨリ、西方印
度、阿弗利加、欧羅巴諸國、南方濠洲、新
西蘭ニ亘ル。加之地理上ノ好位置ハ世界
ノ凡ユル國籍ノ船舶ヲシテ同港ニ碇ヲ投
ゼシメ、其ノ埠頭ト船渠ハ世界ニ於ケル此
種施政中最モ繁忙ナルモノノ一ナリ。
從ツテ各國商人ハエーゼントヲシンガポ

ルニ有シ商況殷賑ヲ極メ、其積換貿易ノ
如キ人恐ラク世界一、ニヲ争フモノナラン。

英領馬来ノ輸出入貿易ニ関シテハ英ノ
八割迄ハ英人商社ノ活動ニナリ、輸入品ノ
販売人モトニテ市場商人タル華商ノ独占
スル所ニシテ、輸出品ノ買付人大半ハ英人
及其他ノ外人ノ手ニ依ツテ行ハル。

英領馬来外國貿易ノ約六割八、新嘉坡及
彼南ノ両港ヲ通ジテ行ハルモ、其ノ外英
領馬来ノ主要港トシテモラツカ及馬来聯
邦ノポートスウエテナム港アリ。而シ
テ之ニ連ナル内陸ノ馬来聯邦及非聯邦諸
州ハ商業上之等諸港ニ於テ輸出入セラルル各種
ヲ構成シ諸港ニ於テ輸出入セラルル各種

商品人鉄道其ノ他ノ河川等ノ使ニヨリ次
陸ノ各地ニ仕向ケラル。

第二　外地ノ人ノ移民

一、移民ノ沿革、

我国ト南洋ノ通商ハ室町時代ヨリ徳川
ノ初期ニ至ル相当久シキ間斉ハレタルモ
ノナルモ、徳川ノ鎖国ニ依リ外国トノ交通
絶ヘ、其ノ結果各地ノ日本町モ自然消滅セ
シモノナリ。

然シ明治ノ世トナリ鎖國令解カレテヨリ極ク小數ナガラ行商或ハ特産品ノ輸入ヲ目的トシテ南洋ニ渡航スル者生ジ、其後意外ニモ九州ノ島原及天草娘子輩ノ移住ヲ見タルナリ。彼女達ハ勇敢ニモ南洋ノ到ル所ニ侵入シテ天草女ノ威名ヲ残スト

イニ与ツテ力アリキ。而シテ明治三十二年ニ人在留邦人一、四〇〇名、其ノ中約一、〇〇〇名ガ当地英領馬来ト蘭領印度ニ居住セルモノナリト云ハル。

是レヨリ先、即チ明治二十四年三井物産株式会社ガシンガポールニ支店ヲ開設セルモノナルモ、当時人眞ノ移住或ハ投資ヲ

目的トシテ渡航シタルモノハ極メテ僅少ナリキ。

然ルニ前述ノ如ク天草娘子軍ノ海外進出ニ依リテ彼地ノ事情ガ紹介セラレ、先駆的商人ノ発展ヲモ見ルニ至リ、特ニ日露戦争ニ於テ我ガ帝国ガ覇ヲ得シ後ハ邦人ノ歓迎セラルルトコロトナリ、明治四十年ノ頃ヨリ大正、年代ニ至リ、其ノ数ハ膨ニキモノアリキ。

明治四十年頃ノ在留邦人数ハ五五三人トナリ、就中女子ガ其ノ過半ヲ占メ、更ニ大正三年欧洲大戦ノ勃発ト共ニ彼我ノ経済関係密接トナルヤ、此種女子ノ在留数ハ愈々多ク、大正八、九年頃ハ其ノ極ニ達セルモノト云ハル。

前述ノ通リ日露戦争ニ依ル白人露國ニ対スル勝利ハ日本商品ニ対スル南洋土人ノ信用ヲ増シタルト同時ニ日本人ニ対スル尊信ヲ著ルシク増加シ、次ニ欧洲大戦ニ依リ欧洲各國及北米ヨリノ南洋向商品ガ輸入杜絶セルノヲ機会ニ、日本ハ南洋貿易ニ対スル鞏固ナル地盤ヲ茲ニ築キ上ゲタル

モノナリ。

斯クテ南洋ハ、我貿易上北米・支那ニ亜ゲ重要ナル市場ヲナスニ至リ、大正十四年ノ護謨價暴騰ニ依ル護謨事業ノ勃興ニ刺戟セラレ、邦人企業家ガ弗々新嘉坡方面ニ進出スルニ伴ヒ、邦商モ更ニ増加シ渡航者モ年々多キヲ加フルニ至レリ。

右ハ主トシテ南洋ノ全体ヲ通ジテ見タ

ルモノナルモ、英領馬来人往時特ニ南洋ノ
中心ヲナセル事実ヨリ見ルモ自ラ其ノ状
況ハ判然スルモノナリ。即チ大正十年ノ
馬来在留日本人数ハ六、九八九人ニシテ、十
年前ノ明治四十五年ノ四、一六人ニ比較
スレバ、正ニ七一%ノ増加、シンガポールニ
テハ一一八%ニ、ジョホールニ三人ナリ
シモノガ一、二八六人トナリ大四三%ノ増
加トナリタリ。

尤モジョホール八明治三十八年三五公
司（愛久澤直哉氏）ガ邦人栽培企業家中
ノ先駆者トシテ護謨栽培ヲ創メタル所ニ
シテ、一時不況ヲ呈シタルモ、大正十四年頃
市況再ビ活況ヲ呈スルニ至リ、護謨園ノ新

設、拡張ヲ見テ今日ニ及ベルモノニシテ在
留邦人ノ大多数ガ護謨栽培業ニ従事シ来
リタルハ、シンガポール等ノ如キト多少其
ノ趣ヲ異ニスルモノナリ。
今英領馬来渡航本邦移民数ヲ各年次別
ニ表示スレバ次ノ如シ。

出所＝台湾ト南支南洋及拓務統計

明治四十三年　五九人

明治四四年　八九人
〃　四五年　一八八人
大正二年　一〇二〃
〃　三〃　一二〇〃
〃　四〃　九八〃
〃　五〃　一六〇〃
〃　六〃　三四〇〃
〃　七〃　四〇九〃
〃　八〃　三一六〃
〃　九〃　二六三〃
〃　一〇〃　二二三〃
〃　一一〃　一〇五〃
〃　一二〃　五〇〃

大正一三年	一五二人	
〃 一四〃	四三七〃	
〃 一五〃	四〇二〃	
昭和二年	不明	
〃 三年	四七五人	
〃 四〃	五一三〃	
〃 五〃	八三五〃	
〃 六〃	五四九〃	
〃 七〃	三五六〃	
〃 八〃	三二二〃	

即チ前表ハ護漢價ノ暴騰シタル大正十四年ニ於テ渡航者ガ著シク増加シタルコトヲ示スモノナリ。

次ニ本邦内地人在留数毎十年ノ比較ヲ示セバ次ノ如シ。

年次	内地人数	摘要
明治三十二年	一、〇〇〇	英領北ボルネオ及サラワク並ニ蘭領印度ヲ含ム
明治四十一年	二、一六二	
大正八年	八、二九七	

出所ハ台湾ト南支南洋

昭和三年	
〃四年	七、八七五
〃五年	六、八三三
〃六年	六、四五四
〃七年	五、八六四
〃八年	五、七二九
	(八、〇五四)
	(六、九八九)
	(六、六〇四)
	(五、九九四)
	(五、八五三)

備考（一）内ハ朝鮮人・台湾人ヲ含ム。

二、英領馬来ノ次地人移民ニ対スル方針

英領馬来ニ於テハ内地人移民ノ入國上陸ヲ認メ又、自由移民、移民会社及会社企業等ニ依ル移住ヲ認ムル。

又個人企業、会社及組合等ノ法人企業共法律上許可セラレ、從ツテ土地ハ總テ、英

国皇帝ノ所有ナレトモ、我内地人モ内国人ト同様其ノ永租借権ヲ取得スルコトヲ認メラレ、唯年々一定ノ地代ヲ納付シテ農商工業何レノ用地トシテモ使用スルコトヲ得ルモノナリ。

然シ蘭領印度ノ如キ自由経済主義ト稱シ、世界各国ノ資本家ニ対シ、対等ノ條件ニテ其ノ土地ヲ開放シ、又英領北ボルネオノ如キ外人ノ企業比較的容易ナル所ニ反シ、再来半島ニテハ次第ニ外資ヲ歓迎セザル傾向カ窺ハレ来リシコトハ遺憾ナリ。

鞍近失業問題或ハ思想問題ノ頻出スルニ鑑ミ海峡植民地政庁ハ外国人入国取締令ヲ制定シ、一九三三年一月一日ヨリ之ヲ

実施スルコトトシ、一九三二年十二月十四日ノ官報ヲ以テ個人又其ノ経済関係ニ鉄箔アルモノノ入国ヲ制限スルコトトセリ。

今其ノ取締令ノ要項ヲ掲ゲレバ次ノ如シ。

一、海峡植民地外国人入国取締令要項

(一) 海峡植民地ニ渡航スル外国人ニ対シテハ臨検ノ移民官ヨリ上陸許可證ヲ発給シ之ニ対シテ手数料五弗ヲ徴収スベク在留者ニ在リテハ上陸許可證ハ之ヲ入国許可證ト引換ヘラルベク、右入国許可證ノ有効期間ハ二年ニシテ、期間終了後更新サルル但シ八ヶ年以上在留スル者ニ在リテ

八終身有效ノ居住證ノ發給ヲ受クル
コトヲ得。

(二) 二週間以内ノ滯在者又ハ乘船通過
旅客ニ對シテハ假上陸ノ取扱ヲ爲ス
コトヲ得ベク此ノ場合ニ於テハ保證金
ヲ徵スルコトアルベシ。

二、同誌要旨ニ關シ新嘉坡田村總領事
ヨリノ報告ヲ掲グレバ次ノ如シ。

(一) 適用ヲ受クル外國人。

英國臣民、英保護領又ハ英委任統治領
人民ニ非ザル者ヲ除ク。
但シ左ノ者ヲ除ク。
通過旅客ニ非ザル者ニシテ吉嶺ノ他
ノ植民地ヨリ又ハ英保護領タル馬來

諸州ヨリ入國又ハ上陸スル者、蘭領印度、英領北ボルネオ又ハサラワクヨリ入國又ハ上陸スル者

十二才未滿ノ兒童又ハ醜業ニ從事セサル婦女

本法所定ノ又ハ英保護領タル殖民地ノ一州ヨリ發給セラレタル入國許可證又ハ居住證書ヲ所持スル者

(二)

船長、船主、雇傭者及船舶代理人ノ義務、

入港前ニ於ケル信号旗掲揚、下船許可前ニ於ケル外部トノ交通ノ禁止、船員及乘客名簿ノ提出、外國人ノ不正入國防止、違法者ノ檢擧ニ及其ノ費用ノ負

担等ニ関シ、義務ヲ負ハシムル外場合ニ依リテハ船舶ヲ抑留スルコトヲ得ルモノトセリ

(三) 外国人上陸負数ニ関スル制限

純督ハ届過旅客以外ノ外国人ノ上陸定数ヲ一ケ月以前ニ官報ヲ以テ報告又右負数ハ来船ノ登簿噸数其ノ他ニ基キ決定セラルルモノトス但シ外国民一ケ月二十五名以下ノ場合之ヲ来船セシメ且之ヲ上陸セシムルコトハ妨ナシ

(四) 上陸許可

上陸セムトスル者ニハ許可證ヲ発給スル左記ニ該当セザル限リ規定ノ料

金ヲ支払ハバ移民官ヨリ上陸許可證ノ給付ヲ受クルコトヲ得

病者、不具者、盲者、聾者、痴癲、生計ノ途ナキ老衰者、本人ノ生活並ニ其ノ義務者ヲ扶養スルニ足ル資力ナキ者、就職ノ目的ナキカ移民官ニ於テ就職ノ見込ナシト認メラレタル者、乞食、浮浪者、公共又ハ慈善團体ノ負擔トナル惧アル者、嫌悪セラルヘキ、性質又ハ危険性ノ傳染病ニ罹レル者、他國ヨリ追放セラレタル者、醜業婦、婦動ノ惧又ハ公安ヲ害スル惧アル者

(五) 入國者

本法施行前又ハ其ノ後ニ於テ入國又

ハ上陸スル者ハ移民官ニ入國許可證
ヲ請求スルモノトス此際規定ノ料金
ヲ支拂フ

但本令ニ據ル上陸許可證又ハ再來聯
邦発給ノ上陸許可證ヲ有スル者ナル
時又ハ入國許可證ヲ要スル外國人ニ
シテ海峽植民地又ハ英保護領タル爲
來諸州ニ本法施行前ニ到着シ居ルコ
トヲ移民官ニ於テ認メタル場合ニ入
料金ヲ要セズ

入國許可證ハ二ケ年有効ニシテ其ノ
後ハ二ケ年宛更新ヲ申請スルモノト
ス

移民官ハ左記ノ者ニ非ザレバ更新ヲ

拒絶シ又ハ本証書ノ取消ヲナシ得ガ
ルモノトナリ居レリ

本人及扶養義務者ノ生計ヲ立ツベキ
資カナキ者、就職ノ目的ナク又ハ移民
官ニ於テ就職ノ見込ナシト認メラレ
タル者、乞食、浮浪者、公共又ハ慈善團体
ノ負担トナル惧アル者、他國ヨリノ追
放者、醜業婦、癩患ノ惧又ハ公安ヲ害ス
ル惧アル者

(七) 許可證ノ下附更新ノ拒絶又ハ取消
ニ対スル訴訟

右ノ場合一週間以内ニ抗告スルコト
ヲ得但シ地方政府長官ノ決定ハ終審
トス。

(八)　八ヶ年以上ノ居住者

右該当者ハ居住證明書ヲ地方政府長官ニ申請スルモノトス

右有効期間人本人死亡迄トス

総督ハ審査ノ結果公安ノ爲必要アリト認メ居住證所持人ヲ追放セル場合ニ限リ居住證明書ノ取消ヲナスコトヲ得

(九)　罰則

外國人旅客積載船ノ船長、船主、傭船者船舶代理人ノ本法規迄ニ違反セル時上陸者及居住者ノ本法違反及證書ノ偽造変造行爲ニ対シテハ夫々処罰セラル。

(一〇) 本法ノ適用外ト認メラレタル者

外国領事

(二) 料金

上陸ノ場合 一件 五弗

入國ノ場合 〃 〃

右料金ハ立法会議ヲ経テ隨時変更セラルヘシ。

(三) 実施期日

一九三三年一月一日

次ニ土地獲得ニ付テハ左記ノ規程ヲ設ケ居レリ。

取来半島ニ於テハ、耕地ノ目的ヲ以テ官有地ノ払下ゲヲ受クルニハ規定ノ方式ニヨリ、土地局長ニ払下申請書ヲ提出スルコトヲ

要ス。局長ハ申請地ヲ測量ノ上払下料及手数料ヲ徴収シテ主作物記入ノ栽培借地券ヲ下附ス。払下ノ成否ハ六四〇英反以内ノ出願ハ聯邦州ニ於テハ各レジデントト之ヲ決定シ其レ以上ハチーフセクレタリーノ裁量ニヨル。

下附料一英反当リ最低ニ弗ニシテ額ハ土地価値ニ応シテ定メラル

租借料馬来聯邦ニ於テハ十英反以上ノ場合、一英反当リ払下ゲ後最初ノ六年一弗、其後四弗、十英反未満ノ場合ハ六弗乃至四弗ナリ、

而シテ海峡植民地ニ於テハ最低一英反

当ロ、五弗ヲ徴收ス。

以上ハ農業用土地ニ関スルモノナルモ尚馬来聯邦ニ在リテハ建物敷地一、ロロロ平方呎当年一弗以下都市、郡地一英反当年五弗、海峡植民地ニ在リテハ、農業用地以外ノ土地ハ一、ロロロ平方呎ニ付最低ロ、五弗ト規定セリ。

三、日本政府ノ移民奨励方針

本項比律賓ニ準ズ

四　移民企業者，移民ニ対スル保護

移民企業者ナシ。

五、移民ノ現況

前項ニ於テ述ベタルガ如ク本邦人ノ英領蕃末ニ移住スルモノハ最近ニ至リ、特ニ増加シ大正十四、五年平均四、五百人ニ達スル状勢ニシテ（昭和八年）現在本邦内地人在留者数五、七二九人ヲ数フ。

今年度別移民渡航者数ヲ再掲スレバ次ノ如シ。

昭和四年　五一三人

昭和五年　八三五

昭和六年　五四九

昭和七年　三五六

昭和八年　三二二（註）

出所ハ拓務統計

註　昭和八年渡航者中男ハ二三二人、女ハ九〇人計三二二人ニシテ、此外ニ非移民男一六二人、女九二人計二五四人アリ。

而シテ昭和八年中ノ移民渡航者ノ渡航目的別ヲ挙グレバ次ノ如シ。

目的	男	女	計
農業	八人	四人	一二人
漁業	八〇	一二	九二
鉱業	一	一	一

裝造工業	三人		
土木建築	二	一人	四
商業	一〇六	二五	一三一
家事使用人	三	一〇	二〇
雜	二九	三一	六〇
計	二三二	九〇	三二二

出所＝拓務統計

前表ノ如ク年々移住ニ来ル移民ハ移住組合等ノ如キモノ取扱ヒニ依ラズ、全ク自由移民ニシテ、其居住地域ヲ見ルニ、「シンガポール」ル」最モ多ク、昭和七年十月一日現在ノ在留本邦外地人数五、八六四人ノ地方別外訳ハ次ノ如シ。

地方別	男	女	計
シンガポール	二、一四五人	一、一四四人	三、二八九人
ピナン	一〇四	七一	一七五
ジョホール外	四七七	三四八	八二三
其他	七二三	八五四	一、五七七
計	三、四四九	二、一五七	五、八六四

次ニ斯クシテ住居ヲ定メタル本邦人移民ハ如何ナル生業ニ就クモノナルヤ、先ヅ本邦人種別人口ヲ掲ゲテ、大レヲ職業別ニ示セバ次ノ如シ。

本邦人種別人口

出所＝南洋協会々報

内地人朝鮮人台湾人合計

	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
内地人	四、八九九	五、八二九	六、八三三	六、四五四	七、八六五
朝鮮人	三、〇〇二	三、〇〇三	三、〇〇四	三、〇〇五	三、〇〇六
台湾人	九一四	九一五	九一八	九一九	九二〇
合計	八、八一五	九、八四七	一〇、八五五	一一、四八二	一二、四九一

出所＝南洋協会々報

内地人職業別人口

	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
農業	四、八九九	五、八二九	六、八三三	六、四五四	七、八六五
水産業	九一四	九一五	九一八	九一九	九二〇
	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
鉱業	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
工業	一、八九	一、九一	一、二四	一、〇五	一、〇四
	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
商業	一、八九	一、九一	一、二四	一、〇五	一、〇四
	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
交通業	一、八九	一、九一	一、二四	一、〇五	一、〇四
	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
公務自由業	一、八九	一、九一	一、二四	一、〇五	一、〇四
	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
其他有業者	一、八九	一、九一	一、二四	一、〇五	一、〇四
	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
無業者	一、八九	一、九一	一、二四	一、〇五	一、〇四
	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
合計	一、八九	一、九一	一、二四	一、〇五	一、〇四

出所＝南洋協会々報

鉱業	工業	商業	交通業	公務自由業	家事使用人	其他ノ有業者	無業（主トシテ従屬者）	計
一〇	六七七	四、二六八	一三〇		一、三九七			七、八七五
八四	六五六	一、一〇一	一五三	六〇〇	二〇七	一六	一、九四九	六、九八九
六九	三八六	一、三四七	一五一	三三七	三〇〇	一〇	二、七六〇	六、四五四
六九	三五一	一、一六九	一五九	二八〇	二七五	一〇	二、四八〇	五、八六四
七二	三五〇	一、〇一三	一六四	二六八	二四二	一〇	二、四九九	五、七二九

備考　昭和五年ハ朝鮮人及台湾人ヲ含ム

即チ昭和八年ノ在留邦人数ハ五、七二九人ニシテ其ノ主ナル職業名ハ漁業労務者、物品販賣者、及其ノ従業員、寫眞師、農業者、諸工業従業者等ナリ。

英領馬来ハ我國ヨリ近距離ニアルト共ニ南洋ガ我國ノ工業原料ノ一大供給地ニシテ、交通、地理、気候、人情、風俗並ニ政情ニ対

スル理解比較的多ク、、護謨價ノ隆成トナリタル頃ヨリ各種ノ企業発達シ、護謨、椰子等ノ栽培事業ハ勿論ノコト鉱業、漁業、林業等ニ到ルマデ相等発達セルモノナリ。

今邦人ノ栽培事業ノ状況ヲ昭和五年調査ニ係ル統計ニ依ツテ見レバ次ノ如シ。

（以下ハ地人ノミノモノ不明ニ付邦人全部ノモノニ付記載ス）

邦人栽培企業租借總面積、植付面積、生産面積、植付未済面積並ニ投資額

總面積	四〇、二九六、五二（生所ニ拘務統計陌）
植付面積	二六、八八五、五四
生産面積	二一、四二七、二四
植付未済面積	一三、四一八、九八
投資額	三五、一一三、四〇六圓

同栽培事業主要栽培物植付面積、生産面積並生産高

出所＝拓務統計

植付面積生産面積生産高

護謨	二六・一四一、一三	二一、一六七・〇三	一三、六九〇、六〇六 封度
古々椰子	五一七・七九	二五五・七八	—
珈琲	三・六四	四・四五	四〇〇
檳榔	×四・四五	四・四五	檳榔子実 五、〇〇〇
ズナヽ	四・四五		
ト	×一〇・一一	—	—
バ	一九八・二九	—	—
桑	×一八・三四	—	—
	二〇・二三	—	—
コプラ	—	—	一、八八一 担
椰子	—	—	六、〇〇〇 個
計	二六、八八五・五四	二一、四二七、二四	—
	×二六、九一八・四三	×二一、四三一、六九	—

註 ×印ハ間・混作ヲ含ミ之等ノ合計ハ延面積ヲ占ス。

邦人経営大小別農園数及同面積

出所＝台湾ト南支南洋

植付面積大小別	農園数（主要栽培物）	総面積	植付面積	生産面積

千陌以上	讀鍬・椰子	六	一一九
五百陌以上	讀讀	四	一八・四二七・四三
百陌以上	同	一六	四・〇九〇・二九
百陌未滿	同	九三	一・〇八四・八〇
計			三七・二六〇・一二

	讀讀	一〇六	一七・一五〇・六〇
	讀讀・椰子	九	二四・五〇二・五〇
	讀讀・椰子・トバ	一	二・四〇二・五六
	讀讀・桑	一	一九二・二二
	珈琲	一	六・四六
	横御・讀讀珈琲	一	五・六六

	讀讀	一四	一四・五八九・九九
	讀讀・椰子	六	二・八八九・〇二
	讀讀・椰子・トバ	一	一・四八三・五六
	讀讀・桑	一	一・九九一・四四
	珈琲	一	一・三一三・五三
	横御・讀讀珈琲	一	一九・三六八・五二

	讀讀	一四	一八・三九三・四三
	讀讀・椰子	九	二・八八九・〇二
	讀讀・椰子・トバ	一	一・四八三・五六
	讀讀・桑	一	一・九九一・四四
	珈琲	一	一・三一三・五三
	横御・讀讀珈琲	一	一九・三六八・五二

	讀讀	一〇六	八・三一九・一六
	讀讀・椰子	九	一五・六九一・一九
	讀讀・椰子・トバ	一	一・三五一・四一
	讀讀・桑	一	五〇・五九
	珈琲	一	三・六四
	横御・讀讀珈琲	一	五・六六

	讀讀	一四	二・七九四・九四
	讀讀・椰子	九	一五・五一三・五五
	讀讀・椰子・トバ	一	一・〇三三・九一
	讀讀・桑	一	三〇・四五
	珈琲	一	—
	横御・讀讀珈琲	一	五・六六

英領馬來邦人會社經營園一覽表

（一九三四年度末）

出所＝前年我拓事業要覽）

會社名及代表者名	園名及設立年度	實際投資額（推定）	植付面積 栽培物	種付面積 生産面積	生産量 即ち前年度ゴム・斜度椰子・椰	職工數
株式會社 馬來護謨會社 村上浜吉	（一九一七）	四、〇〇〇、〇〇〇円	護謨 古々椰子	六〇一五〇 四四二八	五、五六八〇	一、八九五、八三
株式會社南亞公司 汝華津幸治	トロスデ園（一九二一年）二、六三五、〇〇〇円 ブキバト園（一九二七年）	八、三八九、八三	（ゴム古々椰子ナツメグ）	（九、九四六、〇） 二、二六三、六 八、八六	（八、三四二、〇） 二、六三六、〇 九九七、〇	一、八六四、九二 不明
株式會社 三五公司	バンゲラン園（一九一六年）（一九一七年）	一、三五〇、〇〇〇円	（ゴム古々椰子ナツメグ）	（八、三四五、〇） 四、四六九、四 七八、六	（三、六三六、〇） 二、三九六、〇 不明	（三三） 二二 一
愛久沢直哉	バトベ植林地（一九一六年）	一、八三一、九三	ゴム	一四、六八四、二	一二四二、二	（三五） 大、四三八、六〇

日本産業護謨株式会社	日産ジョホール護謨園 (一九三四・一〇・買收)	約五〇〇、〇〇〇円	(五、一八一、〇〇) 五七四、〇〇	(ゴム) ゴム	(四、九八五、〇〇) 五七四、〇〇	(四、一一四、〇〇) 五五四、〇〇	一、五〇三、六〇〇 一〇〇、〇〇〇	
	同(旧)ジョホール園 (一九三四、八、合併)	約一、五九三、三四〇円	三、八四五、〇〇	ゴム	三、七五三、〇〇	三、三八〇、〇〇	八五〇、〇〇〇	
	同(旧)大和バンカ園 (一九三四、九、合併)	八七七、〇〇〇弗	一、四七五、〇〇	ゴム	一、四〇九、〇〇	一、一〇〇、〇〇	四三一、〇〇〇	
	同(旧)鷲尾園 (一九三四、九買收)	六五〇、〇〇〇弗	二、八七〇、〇	ゴム	二、五〇〇、〇〇	八〇〇、〇	二三六、〇〇〇	
熱帯産業株式会社 賀来佐賀太郎	土乃園 (一九一九年)	四、八四六、〇〇〇弗	六、五一八、〇	ゴム / 古々椰子 / トバ	六、八六四、〇 / 一、五〇〇、〇 / 九〇〇、〇	二、九一三、〇 / — / 九〇、〇	一、二五〇、〇〇〇	一二
南洋護謨株式会社 藤田單太	南洋護謨園 (一九一二年)	二、〇〇〇、〇〇〇円	七、〇八九、〇	ゴム	三、〇六一、五	二、八〇〇、七	一、一九四、五三六	五
眞植護謨株式会社 松本幸一	眞植護謨園 (一九一四年)	四〇〇、〇〇〇円	一、〇五九、〇	ゴム	九五七、〇	九五七、〇	四一七、五四〇	四
南洋護謨拓殖株式会社 横尾孝之亮	アンサ護謨園 (一九一六年買收)	一、〇七八、八〇〇円	一、九五一、〇	ゴム / 古々椰子	一、八〇九、〇 / 四四、〇	一、八〇九、〇 / 四四、〇	三七六、九四〇 / 不明	四
株式会社南進 平沼亮一	南進護謨園 一九二六年	不明	四五七、五	ゴム	四二六、〇	四一三、〇	一三〇、〇〇〇	二
東洋拓殖株式会社 牧野栄郎	東拓農園 一九三〇 買收	八一六、〇〇〇弗	五、二八〇、〇	ゴム / 古々椰子	三一七、〇 / 一五、〇	二四〇、〇 / 一五、〇	— / 一〇〇	四
株式会社千田商会 千田牟婁太郎	千田護謨園 第一園 (一九一七年) 第二園 (一九二〇年)	一、六七四、〇〇〇弗	三、六三一、〇	ゴム	一、九八三、〇	一、七九三、〇	七六八、〇〇〇	不明
計 會社數 一一		一五、七七八、〇〇〇弗 一三、〇七九、四三〇円	七二、一三九、七 英反	ゴム / 古々椰子 / トバ / 計	五七、六〇八、一 / 六三三、四 / 九〇、〇 / 五八、三五〇、五	四七、三四三、六 / 一七四、六 / 九〇、〇 / 四七、六〇二、二	一九、三二四、三八〇封度 / 不詳 / 帯考参照	

英領馬来個人経営園一覧表（一九三四年一月現在及其以前）

國別	地方別	園名及代表者	拝借面積	実際投資額（推定）	栽培物	栽培面積	生産面積	着手年次	一ヶ年生産高	邦人従業員数及家族数
	シンガポール	大平護謨園 大平源内	五一、〇	五〇、〇〇〇弗	ゴム	四〇、〇	四〇、〇	一九二〇年買収	二三、八一〇	不明
	ウエレスレイ	荒木護謨園 荒木又之	一二、〇	不明	ゴム	一二、〇	六、〇	不明	二、一四〇	〃
	ヂンヂング	小野護謨園 小野繁之函	五五、〇	不明	ゴム 古々椰子	四〇、〇 一五、〇	三〇、〇 不明	一九一六	三一二、〇〇〇	〃
	ピナン	東亜オ二園 巫文造	二二六、〇	オ一園ト共ニ一一〇、〇〇〇	古々椰子	二二六、〇	二二六、〇	一九一八	コプラ一、六〇〇	〃
		大山オ一園 大山辰二	六六、五	不明	ゴム	六六五	五〇、〇	不明	約二二、四〇〇	〃

海峡植民地	計	三四〇、〇五英反	一	ゴム / 古々椰子	一五八、五英反 / 二四、五	一二六、〇 / 一二六、〇		六〇、三八四封度 / 一六〇〇〇塊		
馬來 セランゴール コーランボン及其ノ附近	東郷護謨園 水稲百太郎	一二八、〇	七〇、一〇〇	ゴム	一二八、〇	一二八、〇	一九一二	四〇〇〇〇	〃 〃	一 四
	坂口護謨園 坂口喜平	二〇一、〇	九六、五〇〇	ゴム	一九六、〇	一九六、〇	一九一三	九六、〇〇〇	〃 〃	一 一
	山下護謨園 山下紋太郎	二六、〇	六、八〇〇	ゴム	二二、〇	二二、〇	不明	一三、三三三	〃 〃	一 一
コーラ	天南護謨園 坂口ヤエ	一二〇、〇	三五、〇〇〇	ゴム	一二〇、〇	一二〇、〇	一九一三	六六、六六六	〃	一 一
	佐竹護謨園 佐竹巽	七〇、〇	不明	ゴム	七〇、〇	不明	不明	二八、〇〇〇	〃	
	今村護謨園 今村マシ	三二、〇	〃	ゴム	三二、〇	三二、〇	一九一八	一二、八〇〇	〃	
	石本護謨園 石本清六	五、〇	〃	〃	五、〇	五、〇	一九一九買收	二、〇〇〇	〃	
	豐陵護謨園 佐竹巽	七〇、〇	一七、五〇〇	〃	七〇、〇	七〇、〇	一九一九買收	二七、〇〇〇	〃	
	金子護謨園 金子ツル	五三、〇	不明	〃	五三、〇	未生産	一九一九買收	未生産	〃	
	龍田護謨園 龍田清義	外國一三、〇 / 外一四二、〇	七、八〇〇	〃	一三、〇 / 二、〇	一三、〇 / 不明	一九一九買收 / 一九一九買收	一五、二〇〇 / 不明	〃	
	田中護謨園 田中忠吉	五〇、〇	六、五〇〇	〃	五〇、〇	五〇、〇	一九一九	二二、五〇〇	〃	

聯

ル					州				
ク					ブ				
中村農園	中村黄衛門	一八、〇	不明	ゴム	一八、〇	一八、〇	一九二六	七、二〇〇	不明
村里護漢園	村里某	一七、〇	〃	〃	一七、〇	一三、〇	不明	約五、二〇〇	〃
方不園	方不某	二五、〇	〃	〃	二五、〇	二五、〇	〃	一〇、〇〇〇	〃
佐藤護漢園	佐藤金登	一〇、〇	八、〇〇〇	〃	一〇、〇	一〇、〇	一九二九買收	四、五〇〇	〃
島田護漢園	島田傳次郎	一〇、〇	不明	〃	三、〇	三、〇	一九二二	一、二〇〇	〃
吉村護漢園	吉村仁德	二七、〇	四、〇〇〇	〃	二七、〇	二七、〇	一九一一	一〇、八〇〇	〃

附近									其
才木護漢園	才木才助	二五、〇	不明	ゴム	二五、〇	二五、〇	不明	七、五〇〇	不明
島田護漢園	島田夕木	三、〇	六一四買收	〃	三、〇	三、〇	〃	二、六四〇	〃
村山護漢園	村上隆成	一四、〇	一〇、四七〇	〃	一四、〇	一四、〇	一九二五買收	三、〇八〇	〃
江浦護漢園	江浦桃太郎	三八、〇	一五、〇〇〇	〃	三八、〇	三八、〇	一九一三	一五、〇〇〇	〃
長谷川護漢園	長谷川義男	四七五、〇	一〇〇、〇〇〇	ゴム 桑	七五、〇 二〇、〇	七五、〇 不明	一九一四	三五、〇〇〇 不明	〃
山崎護漢園	山崎豊四郎	二四、〇	八、七七〇	ゴム	二四、〇	二四、〇	一九一八	一〇、〇〇〇	〃

邦

ペ　ラ

他	タ	パ	一	地	方
島田護謨園 島田柄術	河野護謨園 河野元義	川崎護謨園 川崎志免造	竹内護謨園 竹内泰平 〃 繁治 島崎善吉	大和園 山口禅夫	宮崎護謨園 宮崎キモ 外二名
三、〇	二六、〇	七八、〇	一八一、〇	一〇、〇	一二、〇
六一四	一五、〇〇〇	一九、〇〇〇	三五、〇〇〇	二、一八〇	三〇、二五〇
ゴム	〃	〃	〃	〃	ゴム
三、〇	二六、〇	七八、〇	一八一、〇	一〇、〇	一二、〇
三、〇	二六、〇	七八、〇	一三〇、〇	不明	五、〇
不明	一九一九	一九一八	一九二六買收	一九二六	一九二六買收
二、六四〇	二二六六六	三九、〇〇〇	一三、〇〇〇	不明	約二、〇〇〇
〃	〃 一二	不明	〃	〃	不明

タイピン地方				其			
潮崎農園 潮崎牟市	澤田護謨園 不明	芝下護謨園 芝下留三郎	井上護謨園 井上義次郎	飯島護謨園 飯島某	川原農園 川原忠吉		
五、〇	三、〇〇	一五、〇	四五、〇	一二、〇	二五、五		
三、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一八、七〇〇	二五、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇		
ゴム	ゴム	ゴム	ゴム	ゴム	ゴム 吉々柳子		
五、〇	三〇、〇	一五、〇	四五、〇	一二、〇	六五 二三、五		
五、〇	三〇、〇	一五、〇	三〇、〇	一二、〇	不明 四、〇		
一九一七	一九一六	一九二〇	第一圏一九一四 第二圏一九二一 第三圏一九五	一九一九	第一圏一九一七 第二圏一九三買收 第三圏一九二六		
三、三三三	約一二、〇〇〇	四、五〇〇	一六、〇〇〇	四、〇〇〇	コプラ五〇		
一四	一一	不明	〃	〃	〃		

州							
他	上田護謨園 上田ツチヲ	五、〇	不明	ゴム	五、〇	五、〇	不明	三、〇〇〇	不明
	村上護謨園 村上太郎次	三、〇	一、五八	ゴム	三、〇	三、〇	一、九一八	一、八〇〇	〃
地	小林農園 小林良助	一八、〇	六、三〇	ゴム	一八、〇	一八、〇	第一園一九一九 第二園一九二一	五、四〇〇	〃
	坂井護謨園 坂井伊代松	七五、〇	一七、〇〇〇	ゴム	四〇、〇	四〇、〇	一九一七買收	一三、二〇〇	〃
方	諸戸護謨園 諸戸末松	二五、〇	不明	ゴム	二五、〇	二五、〇	一九一七買收	一〇、〇〇〇	〃
	森川護謨園 森川平三郎	二二、〇	九、〇〇〇	ゴム	二二、〇	二二、〇	一九一七	一一、〇〇〇	〃
木	細波園 細波ミツノ	五三、〇	二三、七六〇	ゴム	五三、〇	五三、〇	一九一五買收	二一、二〇〇	〃
グ	小川護謨園 小川ミツ 外一名	一三、〇	不明	〃	一三、〇	—	一九二七	不明	〃
リ	大平護謨園 大平仁三郎	五一、五	五〇、〇〇〇	〃	五一、〇	五一、五	一九二七 一九一九買收	一七、五〇〇	〃
ス	中原護謨園 中原藤夫	三五、〇	不明	〃	三五、〇	三五、〇	不明	一二、二五〇	〃
ミ	吉葉農園 吉葉直次郎	四三、〇	不明	〃	四三、〇	四三、〇	不明	一五、〇五〇	〃
ラ	絲田園 絲田イサ	五四、〇	不明	〃	五四、〇	五四、〇	一九一六	一八、九〇〇	〃

州	小岩井護謨園 小岩井靖	二〇一、〇	六三、二一〇	ゴム	三〇一、〇	未生産	一九二八	未生産	不明
パ	甲子園 小岩井靖 外二名	一四二、〇	三七、八九五	ゴム	一三五、〇	一三〇、〇	一九二四	六六、六六六	〃 一 〃 一
パ	井出上農園 井出上ノイ	九、二	四、〇〇〇	ゴム	九、二	九、二	一九一五	六、三八〇	不明
パ	浜崎M護謨園 浜崎マツ	一〇、七	三、六五〇	〃	一〇、七	一〇、七	一九一六 一九二九買收	二、三五〇	〃
パ	同 丁護謨園 同 トシ	一七、〇	一一、一〇〇	〃	一七、〇	一七、〇	一九一五	五、七五八	〃
パ	鳥田農園 鳥田経太郎	四九、〇	不明	〃	四九、〇	四九、〇	一九二三	一七、一五〇	〃

ン	辰元護謨園 辰元安造	一三、〇	三、〇〇〇	ゴム	一三、〇	一三、〇	一九二三	一一、二〇〇	不明
ン	田中農園 田中ハツ	一五、〇	五、〇〇〇	ゴム 古々柳子	一二、〇 三、〇	一二、〇 三、〇	第一圃一九〇五 第二圃一九一四買收	八、〇〇〇 約一三	〃
ン	中村護謨園 中村シナヨ	三、〇	七五〇	ゴム	三、〇	三、〇	一九二〇	一、四四〇	〃
ン	村上サツ園 村上サツ	一七、〇	六、二〇〇	〃	一七、〇	一七、〇	第一圃一九二〇買收 第二圃一九二七	四、二〇〇	〃
ン	村崎護謨園 村崎治作	六、五	三、三〇〇	〃	六、五	六、五	一九二八買收	一、七五二	〃
ン	久野園 久野信吉	一〇、〇	一、〇〇〇	〃	一〇、〇	一	一九二九	不明	〃

州

山本護謨園 山本エキ	一七、〇	不明	ゴム	一七、〇	一五、〇	第一回一九一七 第二回一九二四買收	四、五〇〇	不明
山本園 山本キヤ	五、〇	二、五〇〇	〃	五、一	五、一	一九一〇買收	五、四〇〇	〃
山下護謨園 山下政太郎	二二、〇	七、〇〇〇	〃	二二、〇	一〇、〇	第一回一九一八 第二回一九二九買收	八、四〇〇	〃
酒井護謨園 酒井カネ	四〇、〇	一八、七七五	〃	四〇、〇	四〇、〇	一九二〇買收	二四、〇〇〇	〃
城戸農園 城戸ミツ	一〇、〇	四、〇〇〇	〃	一〇、〇	一〇〇	一九一五	五、七〇〇	〃
馬来聯邦州計 農園数六四	二六、九八七、五英反	二六、九八七、五英反	ゴム 古々椰子 桑	二六、五〇九英反 五〇、〇 二六、五	二〇、〇二二、四英反 七、〇 一			

非

ジ

ジョホール河地方

速水護謨園 速水太郎	一、〇〇三、〇	三四五、〇〇〇 卅	ゴム	七〇〇、〇	五〇〇、〇	一九一一	二四〇、〇〇〇	二
菅原護謨園 菅原恒覚	八二六、七	二五七、〇〇〇	ゴム	四三八、〇	三五〇、〇	一九一三	八七〇、〇〇〇	一
福田護謨園 福田太一	一二四、〇	一二〇、〇〇〇	ゴム 古々椰子	二一七、〇 七、〇	二一七、〇 七、〇	一九一三 一九二〇	四八〇、〇〇〇 約六〇	
西岡園	五三、〇	四五〇〇	ゴム 珈琲	二五、五 〇、五	未 未	一九二九	未 未	
神農園	四八、〇	一六、〇〇〇	ゴム	四八、〇	三〇、〇	一九二七	四、〇六八	
得村護謨園 得村文太郎 村上昔松	三二六、〇	一二〇、〇〇〇	ゴム	三一六、〇	一五〇、〇	一九一〇	約六〇〇、〇〇〇	

馬来

	長野護謨園 長野シマ子	九、〇	一八、〇〇〇	ゴム	九、〇〇 五一五、〇	七〇、〇 五一五、〇	大正四一九一五 大正九一九二〇	二四、〇〇〇	
ジョホールバル及中央ジョホール	浜口護謨園 浜口文彦	二五三、〇	不明	ゴム	二五三、〇	四六、〇	一九二四	一六、〇〇〇	
	豊田護謨園 豊田安太郎	一八、〇	〃	ゴム	一八、〇	一八、〇	不明	七、〇〇〇	
	井上護謨園 井上智通	九九、〇	〃	ゴム	九〇、〇	七〇、〇	一九二五	六、〇〇〇	
	太田護謨園 太田茂一	二〇、〇	〃	ゴム	二〇、〇	二〇、〇	不明	八、〇〇〇	
	丸山護謨園 丸山貞蔵	一四、〇	〃	ゴム	一四、〇	一四、〇	〃	六六〇〇	
ヨ ル地方	竹田護謨園	一八、〇	〃	ゴム	一八、〇	一八、〇	〃	七、二〇〇	
	福田護謨園 福田基一	一二、〇	一、五〇〇	ゴム	未	未	一九二八	—	
バ	泉口護謨園 泉口嘉大（大曜令）	二〇四、〇	不明	ゴム	二〇四、〇	一八一、〇	一九一〇	八九、七一〇	六 二
	三笠護謨園 三木衣太郎	一五六、〇	六〇、〇〇〇	ゴム	一五六、〇	一五六、〇	一九一八	七三、八〇〇	四 二
	大場（兄）園 大場勝治	一三六、〇	三六、〇〇〇	ゴム 果樹	一三三、〇 三、〇	一三三、〇 —	一九二二 一九三三	五〇、八二三 —	一 一
	大場（弟）園 大場義八	三五、〇	五、七〇〇	ゴム	三五、〇	三五、〇	一九二八	二、四六六	一 一

聯

ホ

ト

バ

松村護謨園	松村磯右郎	一四〇、〇	三六九〇〇	ゴム／トバ(不作)	一〇四、〇／一五、〇／五五、〇	一〇四〇／一五、〇／五五、〇	一九一九	三四二〇〇／不定／不定	一 六 一
保坂護謨園	保坂茂吉	九〇、〇	三二、〇〇〇	ゴム	九〇、〇	九〇、〇	一九二九	四二、〇〇〇	一 一
上野護謨園	上野久	八七、〇	不明	ゴム	八七、〇	八七、〇	不明	二九、二五〇	不明
小松護謨園	小松房次郎	八一、〇	二二、〇〇〇	ゴム	八一、〇	三一、〇	一九一九	一〇、七六二	一 六
金泉護謨園	金泉愼二郎	四〇、七	二、五〇〇	ゴム	四〇、七	三五、〇	一九一八	一六〇〇〇	一 三
鈴木兄弟農業園	鈴木梓	四一、〇	六、四〇〇	ゴム	四一、〇	一四、〇	一九一六	四、〇〇〇	一 二

邦

一

八

亀川護謨園	亀川嘉四郎	三一、〇	不明	ゴム	三二、〇	三二、〇	一九二四	一六、〇〇〇	一 四
木村園	木村我三郎	三三、〇	不明	ゴム／果樹	二六、〇／一、〇	二六、〇／一、〇	一九一七／一九二八	一三、三三三／六〇〇	一 六
守田護謨園	守田正市	二二、〇	二、〇〇〇	ゴム	二二、〇	一八、〇	一九一九	九、一六〇	一 六
荻原金盛共有園	荻原稀吾 金盛右市郎	一三、七	三、六八〇	ゴム／椰子珈琲間作	三、七／一〇、〇	三、七／一一、〇	一九一七	一、六〇〇／椰子三、六七二 珈琲三六〇〇	一 二
田中護謨園	田中惣次郎	九、五	―	ゴム／果樹	九、〇／〇、五	九、〇／〇、五	不明	三、六〇〇	一 四
大羅合計		一、一二〇、九英反	―	ゴム／トバ／果樹／椰子珈琲間作	一、〇六二、五英反／七〇、〇／四、五／一一、〇	九三四、七英反／七〇、〇／一、五／一一、〇		四〇四、七三八封度／不定／大塔／七二 三、六 塔	

一二二

州								
ル州地方								
今沢園 今沢正光	八七、四	三五、〇〇〇	ゴム	八七、四	八五、〇	一九二四	三六、〇〇	三｜
黄護謨園 黄玉成	一三〇、〇	不明	ゴム	一一〇、〇	一一〇、〇	不明		九｜
奥根護謨園 奥根吉太郎	三三、〇	〃	ゴム	三三、〇	未	〃		六｜
松田護謨園 松田庄太郎	二一、〇	〃	ゴム	二一、〇	二一、〇	〃		二｜
原護謨園 原松五郎	九、〇	〃	ゴム	九、〇	九、〇	〃		四｜
守田護謨園 守田実二郎	二七、〇	〃	ゴム	二七、〇	一八、〇	一九二七	八、〇〇〇	不明
ムア地方								
ムア共同護謨組 満留政二郎	六四、〇	〃	ゴム	六四、〇	六四、〇	一九二五	二〇、四八〇	〃
池泉護謨園 満留政二郎（兼任）	一一、〇	一一、〇〇〇弗	ゴム	一一、〇	一一、〇	一九二五	三、五二〇	〃
石河護謨園 石河操	七一、〇	不明	ゴム	四〇、〇	四〇、〇	不明	一二、八〇〇	〃
ケダ州								
東亜第一園 巫文進	二六五、〇	第二園参照	ゴム	二六五、〇	二六五、〇	一九一八	一六〇、八六四	不明
大山第二園 大山辰二	六四、五	不明	ゴム	六四、五	六〇、〇	不明	三三、六〇〇	〃

	非馬來聯邦州計	英領馬來合計
農園數	四一	一〇八
	四九〇八五 英反	八三〇五五 英反
ゴム	四、〇三一、九 英反	六、六九二、二 英反
古々椰子	七、〇	二七五、〇
トバ	七〇、〇	七〇、〇
果樹	四、五	—
檳榔珈琲間作	一一、五	一一、五
ゴム	三、一二〇、七 英反	五、二四九、一 英反
古々椰子	七、〇	二四〇、〇
トバ	七〇、〇	七〇、〇
桑	一、五	—
果樹	一、五	一、五
檳榔珈琲間作	一一、〇	一一、〇
ゴム	一、二四二、一六八 封度	二、一四四、七七二 封度
古々椰子	六〇墳	一、七二三墳
トバ	不定	不定
桑	大墳	—
果樹	檳榔七七 珈琲三、六 墳	大墳
檳榔珈琲間作		三、六墳

印人珈琲栽培状況次ノ如シ

印人ノ珈琲栽培ハ馬來非聯邦ニ於テ一個人之ヲ行ヘリ。

（檳榔樹ト混植）

園數　一

植付面積　一一・〇英反

生産面積　一一・〇〃

生産量　三。六擔

次ニ邦人経営農場ノ地方別分布状況ヲ其ノ所在明ラカナルモノノミニ少キ作製スレハ次ノ如シ。

海峡植民地	マラッカ			
	ウエルスリー			
	デインデイン			
	ピナン	一	一	一三
	シンガポール	二	五	
計		三	六	
馬来聯邦	ペラ	一	一	
	スランゴール	四	八	
	ネグリスムビラン	二	一	
	パハン	一	五	
計		八	一五	
馬来非聯邦	ジヨホール	一三	二六	四大

ケダー
ケランタン
トレンガヌ
計

一
一
二
四九

英領馬来ニ於ケル本邦人ノ栽培事業ハ各地ニ行ハレ居リ、前表ノ如ク、ケダー・ケランタン・トレンガヌノ如キハ栽培事業

者数少ナキモ、シンガポールニ近ヅクニ従ヒ其ノ農場ノ数ヲ増シ、特ニジヨホールノ如キハ其ノ数著シク増加ス。又ジヨホール=於テハ一農場ニテ、五、〇〇〇「ヘクタール」以上ノ植付面積ヲ有スルモノアリ。

邦人ノ当地=於ケル栽培企業中護謨栽培ガ最モ盛ナリトス云フベキモノナルモ、後

来其ノ企業ニ対スル熱心ノ度足ラザルト
数年前ノ財界ノ変調ト熱帯産物ノ(相場)不振ニ
ヨル拓殖資金ノ欠如ノタメ其ノ成績ヲ十
分挙ゲ得ザル現状ニアリ。

邦人ノ英領馬来ニ於ケル林業及鉱業ニ
在リテハ石炭(海)運産業合資会社ハ資本金一、
五〇万圓ヲ以テ鉄鉱区トシテ、記ヨホール
外ベトパハ及ケママンヲ有シ、年額八〇万
乃至九〇万噸ヲ生産ス。又林業ニ於テハ
其ノ面積五〇、〇〇〇英反、生産四〇、〇万石
ニシテ、樹種ハ主トシテカポール、チンカワ
シ・ムソウ等ナリ。

又日本鉱業株式会社
ハヅングンニ鉱区一、
ヲ有シ一九三一年ニ
ハ一、〇万石五、〇〇〇

噸ヲ輸出スル計画ナリキ。

又錫鉱業ニ関シモ石原産業ニ於テケマラン鉱業地ヲニ採掘研究中ナリ。

水産業ニ於テハシンガポールニ大昌・石津両公司外十数組アリテ優秀ナル漁船運送船及網具ヲ使用シ、冷蔵庫ヲモ建設セントスル状勢ニシテ、昭和五年ニハ日本人水産組合ヲ設立セリ。昭和三年ノ漁獲高一四〇万弗ニシテシンガポール附近漁獲高ノ三分ノ一ヲ占ムル状勢ナリ。

邦人ノ英領馬来ニ於ケル商業者ハ、全邦人中最モ多ク、特ニ其ノ過半数ハシンガポールニ居住シ、個人商店ハ物品取売業即チ雑貨・綿絲布製品、医療機具、飲食料品、美術品

及陶磁器ノ販賣ニ從事ス。

昭和四年ノ調査ニヨレハ年額一万圓以上ノ取引高ヲ有スル物品販賣業者数五大中雑貨商（兼営ヲ含ム）一六、綿絲布製品商一一、ホテル業七、寫眞業五ナリキ。

尚商事会社ノ主ナルモノニ三井物産、三菱商事、大同礦寸、加商、三ワ引物産等アリ。

六、移民事業ニ要シタル経費

一、	日本政府ノ経費	不明
二、	英領馬来ノ経費	不明
三、	移民企業者ノ経費	

移民企業者ナシ。依而経費ナシ

四、其他

不明

日本ノ投資額次ノ如シ。

日本投資額

栽培業	二七、〇〇〇、〇〇〇円
漁業	一、二〇〇、〇〇〇
鉱業	九、七〇〇、〇〇〇
商業	三、三〇〇、〇〇〇
合計	四一、二〇〇、〇〇〇

七、將來ノ移民ノ餘地

南洋ハ南米ト共ニ本邦人ノ海外発展ノ好適地ニシテ特ニ南洋ハ地理気候、風土ハ本邦人ノ生活ニ良ク適シ、就中シンガポール等ノ海峡植民地ヲ除ク馬来聯邦並ニ馬来非聯邦ハ土地ノ大部分ガ斧鉞ヲ入レザル未開拓地ニテ、而モ其ノ面積ハ九州。

的ニ有利ナ地位ヲ占メ

四國及北海道ヲ合シタル程度ノ広大ナル地積ヲ有シ人口一平方粁平均約二〇人ノ外ニテ極メテ稀薄ニアルノミナラズ、殊ニ豊饒ナル土地ヲ到ル所ニ有シ居ルノデアル。而シテ既ニ他国人ノ移住セルモノ多シト雖モ、所定ノ手続サヘ経レバ容易ニ払下ケ得ラルル耕地少カラズ。

今ソノ概要ヲ述ベン。

馬来聯邦中セランゴール州下ニハウルセランゴール、ウルランガツト、コーラランガツト、クランコーラスランゴール等ニ各々一、ニ万カラ八万英反。

ネグリスムビラン州ニハタムピン、ジエレプ、コーラピラーノ諸郡及海岸地方ニ

栽培可能地ガアリ、パハン州ニハ栽培用地トシテトメルロー郡ニハーカロ、ロロロヘクター、其ノ他クアンタン、ヘントン、コーラリピス郡アリ。又パハン州ニハ産油植物栽培ノ爲ニ政府ノ保留セル土地アリ。同州ニハ珈琲・タピオカ・ガムピルノ栽培ニ適スル土地殘存ス。

馬來群ニハコーラカンサー、南ペラ、バタンパダンノ諸郡ニ未拂下ノ大面積アリ。南ペラ郡ニハ甘蔗及油椰子栽培ノ爲政府ノ保留地アリ。馬來非聯邦ノジヨホール州ニ於テハタピオカ、ガムピル、産油植物、珈琲其ノ他一般熱帯植物ニ適セル土地ガ容易ニ獲ラレ、ケダー州ニハタピ

オカ。油椰子。古々椰子。芭麻。ガムビ
ル栽培ニ適スル土地アリ。トレンガヌ州
デハ一九二二・二三年ノ兩年ニ土候所有ノ
土地ヲ州ノ所有ニ移シタルヲ以テ、未ダ予
ヲ觸レザル大面積ノ農業用地ガ同州土地
局ノ管轄ヲ受ケ居ルコトヽナレリ。
茂良及長ハ自然的条件ト相俟ツテ護謨

樹ノ栽培ニ最モ好適シ、蘭領印度及錫蘭ヲ合
スレバ世界年産額八三万屯ノ八割以上ヲ
産スル景況ヲ呈シ、英領馬来ノミニテ四五
萬噸即チ五割以上ヲ占メ、前述ノ如ク、之ガ
栽培可能面積尠カラズ、且ウ本邦人ノ之ガ
栽培企業ノ余地亦尠ガラズ。
抑々護謨栽培事業ノ如キハ其ノ生産費

ノ大部分ヲ占ムルモノハ労働賃金ナルヲ
以テ之ガ低廉ナル事ハ事実ノ盛衰ヲ左右
スル鎖鑰トモ云フベキモノナルガ幸、英領
馬来ハ生活程度低ク又廉価ナル労銀ニテ
馳使シ得ル土人労働者ヲ有スルノミナラ
ズ、地理的ニハ支那、印度等ヨリ勤勉ニシテ
又従順ナル集団移民ヲ必要ニ応ジテ自由
ニ絆合シ、不必要トナレハ自由ニ解雇シ得ル
極メテ優越ナル位置ヲ占メ、投資本位ノ農
業企業地トシテハ真ニ理想的トモ称スベ
キ特徴ヲ有ス。

要之、英領馬来ハ生活程度低ク、且ツ安価
ナル労銀ニ甘ンズル下級労働者ノ中心市
場トモ謂ハレル所ナルヲ以テ、文化的ニ何

土セル我移民ハ是等ノ亜細亜労働移民ニ
対シ労働者トシテ
ノト思考シテ差支
ハ本邦人ノ雇傭労働者トシテノ移民ノ将
来性ハナキモノト假定スレ
将来ニ於ケル本邦移民収容ノ余地ハ一
ツニ彼等亜細亜移民ヲ労働者トシテ雇入
讃奨或ハ椰子等ノ栽培ヲナス移民ニ於テ
先ヅ第一ニ考ヘラルル。

次ニ英領取来ニ於ケル重要問題タル食
糧問題ニ関聯シ、当領ハ目下米作奨励ノ為
或ハ土地ノ払下料、地代ノ引下ヤ、耕作法ノ
改善或ハ同地ニ最モ重要ナル水利施設ノ
普及等ヲ考究中ナルヲ以テ、邦人ノ米作方

面ハ ノ進出モ亦考ヘラルル。又一方副食
物タル蔬菜ニアリテハ現在資本乏シキ、支
那人ニ依リ極ク劣悪ナル状態ニ於テ供給
サレ居ルニ過ギザルヲ以テ、之モ大市街地
附近ニ於テ相当ノ投資ヲナセバ邦人ノ蔬
菜栽培亦成功スベキハ疑ヲ容レザルベシ。
尚馬来半島ニ於ケル最近普及シ市場ニ歓
迎セラルルニ至リタルタピオカノ如キ其
ノ栽培ニ良ク適スルニ拘ラズ、現在大農式
ニ栽培シ製粉スルモノハ、之モ支那人ノミ
ニシテ珈琲ノ如キ国内需要ニ応スル為
ニモ益ニ之ガ栽培ヲ拡張スル余地アル或
ハ今後護謨椰子以上将来発展ノ余地アルヤモ計リ知レズ。
又英領馬来ハ邦業地トシテノ良キ条件

ヲ備ヘ居レドモ土人ノ漁業方法ハ実ニ勅
稚極マルモノアリ無資本ニ近キ彼等漁業
者ニ依ツテハ斯業ノ発達ハ到底期セラレ
ザルモノガ多ク魚肉ノ需要更ニ大デアル
状態ナルニ拘ラズ、当地住民ノ多クハ宗教ノ関係モアリ獣肉ヲトラザル
等ニ依リ邦人漁業者ノ発展地トシテハ実
ニ恰好ノ地ナリ。
例ヘ、今日ニ於テハ同地ガ外資ヲ歓迎セ

ザル傾向アリトハ云ヘ、幸ヒ、外國人入國ノ
制限緩ナルハ前述ノ如クナルヲ以テ、将来
有望ナル諸事業ニ勇躍進出スベキナリ。
併シ英領馬来ハ南米ノ如ク開拓ヲ目的ト
スル移植民ノ誘致ニヨル純然タル農業植
民地タラシメズ、寧ロ企業家ノ移民誘致ヲ
図リ以テ資本利得ヲ主眼トスル投資本位

ノ植民地タラシムベキ訂アリ、事実上、昭和八年一月一日ヨリ実施セラレタル外国人入国制限令ニ見ルガ如ク如何ニ移民ノ進出ヲ望ムトモ一船一ヶ月ニ十五人ノ入国ニ限ラレ、郵船、商船、石炭汽船ノ三社船ニテ七十五人ノミガ新規渡航ヲナシ得ルモノニシテ、結局多数ノ移民ノ進出ハ望ミ得ザルモノナルヲ以テ、寧ロ本邦人移民ハ人口ノ進出ヨリモ資本ノ進出ニ重点ヲ置クベキナリ。

茲ニ於テ本邦移民ノ英領馬来ニ対スル余地モ相当アリ又将来性モアリト謂ヒ得ベシ。

而シテ之ガ余地ニ就テハ今後更ナル調査研究ヲ要スル、又大ナル問題ナリ。

第三　本島人移民

一、移民ノ沿革

本島ハ地理的ニ南洋ニ最モ近キニモ拘ラズ、其ノ在留数人南洋全体ヲ通ジ一千人ニ達セザル状況ニシテ、洵ニ奇異ノ感ナキヲ得ズ。南洋各地ニ多数在住スル廣東・福建人ト同郷関係ナル本島人ガ斯様ニ少ナキハ理由ヲ解スルニ苦シム所ナリ。

本島人ノ南洋ハ勿論英領馬来渡航ノ歴史ニ付テハ其ノ資料ヲ得難ク之ヲ詳ラカニスルコトヲ得ザルモ、極ク少数ナガラモ彼ノ南洋渡航ハ相当古クヨリ行ハレタルモノナルコトハ当地ニ於ケル華僑ノ占ムル地位ヨリモ判断セラルル処ナリ。

然レ其ノ渡航ハ依然トシテ増加スルコトナク、大正十四年ノ講講價、麻價ノ好況時ニ於テスラ其ノ増加ノ見ルベキモノナク、尊口近年ニ於テ漸減ノ現象サヘ見ラルル。

英領馬来ヘノ渡航者亦ニ就テハ不明ナルモ、今之カ考察ノ為在留本島人年次別人口(外務省ノ海外各地在留本邦人職業別人口表ニヨル)ヲ示ス。

在留本島人年次別人口

年次	男	女	計
大正十年	八〇	一六	九六
〃十四年	一〇七	二〇	一二七
〃十五年	一〇四	二七	一三一
昭和二年	一二〇	二九	一四九
〃三年	一二三	三一	一五四
〃四年	一三〇	三五	一六五
〃五年			一二六

昭和六年　一二四
〃　七年　一〇五
〃　八年　一〇四

出所〃台湾ト南支南洋

二、英領馬来ノ本島人移民ニ対スル方針

英領馬来ノ外國人移民ニ対スル方針ニ付テハ第一内地人ノ移民ノ部ニ於テ述ベタルガ如クナルモ、本島人ニ対シテハ内地人ニ対スルト何等異ナル所ナキヲ以テ本項ニ於テハ之ヲ省略ス。

三、日本政府ノ移民奨励方針

本項比律賓ノ部ニ準ズ。

四、移民企業者ノ移民ニ対スル保護

移民企業家ナク従ッテ該当事項ナシ。

五、移民ノ現況

英領殖民地ニ於ケル本邦人ノ移民ハ前掲ノ如ク漸次減少ノ傾向ヲ示シ、昭和八年百四人ヲ数ヘラレタルニ過ギズ。

而シテ本邦人ノ就業状況ハ之ヲ一概ニ論スルコトヲ得サルモ其ノ主ナルモノハ農業及鉱業等ノ労働者、物品販売業者ニシテ、昭和五年現在ノ在留本邦人職業別人口ヲ掲クレバ次ノ如シ。

在留本邦人職業別人口

	男	女	計
農業	六	一	七
鉱業	一一	二	一三
工業	二	一	三
商業	八	一	九
医師	一九	一	二〇
自由業	九	一	一〇
其他ノ有業者	三	一	四
無業者	二七	六	三三
計	八六	一三	九九

出所ハ在外邦人国勢調査報告書

大、移民事業ニ要シタル経費

不明

七、将来ノ移民ノ余地

本島人将来ノ移民ノ余地ニ関シテハ内地人ノ場合ニ於ケルト仍等異リ得ル処ナキ故、本項ニ於テハ之ヲ省略スルモ、併シ本

島人ハ彼地在留華僑ニ対シ或ハ生活程度ニ於テ或ハ労働能力ニ於テ決シテ不利ヲ招クガ如キコトナキハ同地ニ於ケル発展上内地人ニ見ルコトノ出来サル強ミヲ有スルコトハ極メテ明ラカナリ。

第三、外国人移民

一、移民ノ沿革

(一) 支那人ノ移住

古代ヨリ南洋地方ニ就テ多クヲ知リ之ト交渉ヲ有シ居リタルハ支那ナルガ、馬来半島地方ガ支那ト

交渉ヲ有スルニ至リタルハ稍新ラシク明朝ノ初メニマラツカ國朝貢ストイフ記事屢々支那ノ丁史ニ見エルヨリスレバ、恐ラク此頃カラ支那人ノ移住ガ始マリタルモノナルベシ。而シテ過去三十年間ノ中ニ此地ニ移住スルモノ特ニ増シ今日ノ優勢ヲ示スニ至リタルモノナリ。

(二)

葡匂牙人ノ渡来

一九〇九年スコトラ島ノ沖合ニ突如トシテ異様ノ姿ヲセル数隻ノ軍艦出現セリ。コレ欧洲人ノ南洋諸島遠征ノ先駆者タル葡萄牙人ノ一隊ニシテ、當時最モ有望ナル香料貿易ノ中心地タルマラツカ海峡ヲ占領セルモノナリキ。

次イデ彼等ハ丁香、肉荳冠ノ産地トシテ著名ナリシモルウケン・バンダ諸島ヘノ航路ヲ発見スルタメ一探険隊ヲ派遣セリ。該探険隊ハ非常ニ困難ナル航海ヲ征服シ、アムホイナ及タルナテノ諸島ニ到達シ、又爪哇、マヅラ、スムバワ其ノ他ニユーギネア諸島迄探険シ多クノ智識ヲ得タルモ、ソノ帰航ノ途次暴風ノタメ船ハ難破シ、船員ハ辛ウジテ近傍ノ一島ニ辿リ著クコトヲ得タリ。コレ即チ現今ノ比律賓、群島中ノミンダナオ島ナリキ。斯クテ葡萄人ハ殆ンド今日ノ南洋諸島全部ヲ探険シテ、貿易上ニハタルナテニ根據ヲ置キ遠ク誼ヲ交趾方面ニ通ジ、定期貿易ヲ

宮ミ、漸次優勢ナル地歩ヲコノ地方ニ占メタリ。

(三) 英國ノ領有

マラッカ海峡ノ両岸ハ古来多クノ丁史殊ニ欧人ノ東洋植民地史ニ於テ数々ノ史蹟ヲ残ス。葡人が東洋ニ現ハレタ時先ヅ海峡ノ北岸ニ来リテ一五一五年マラッカヲ占領セルモ同市ハ後続渡来セル蘭人ニ奪ハレ、一七九五年ニ及ビ英人ノ手ニ帰セリ。ソノ北ニ在リピナン島ハ爾来半島ニ於ケル英國最初ノ植民地ニシテ一七八六年ケダー王ヨリ割譲サレタルモノナリキ。同年英國ノ東印度会社ハピナンニ再

幾許モナクシテ會社ノ書記トシテピナンニ来リシ英人スタムフオード、ラワフルスハ、ジヨホール王ト約シシンガポール島ヲ大万弗ニテ買收セリ。時、一八一九年ニシテ爾後ジヨホール王ハ依然トシテ王統ヲ傳フ。

一八一八年維也納條約ニ依リ一度和蘭ニ返却サレタルマラツカハ、其ノ後一八二四年ノ倫敦協定ニ依リ再ビ英國ノ主權トスル所トナリ、曩ニ割讓セラレタルシンガポールト共ニ一総督ノ所管スル所トナリ其ノ後間モナクマラツカヨリシンガポールニ首府ヲ移セリ。当時ピナンハ未ダ印度政廳ノ管轄下ニ在リシガ、一八六七年ニ

於テ、ピナン及ウエ
ルスリ（一八〇〇年ケダ
ヨリ割譲サル）等
ヲ加ヘ海峡植民地ト稱
セラルルニ至リ、一九〇〇年ニハデインデ
インス、コンス島
クリスマス島ヲアン
等カ海峡植民地ノ管轄下ニ編入サレタリ。
其ノ後シンガポー
ルハスエズ運河ノ開
墾ト相俟ツテ世界
ノ商業上交通上重要ナ
ル地位ヲ占ムルニ
至リタリ。更ニ其ノ間
英國ハ半島内ノ土侯ヲ懐柔シ、一八七四年
ヨリ一八八七年迄ノ間ニ四箇ノ土侯領ヲ
順次英國ハ其ノ保護領トセリ。
此等ノ地方ハ一八九五年ニ聯邦政治トナ
リ、海峡植民地總督ノ下ニ吉隆坡ニ所在ス
ル聯邦政府ニ依リテ統轄サルルニ至レリ。

又半島中最邦ニ加ハラザリシ五州モ遷羅ヲ費カシ其ノ領土ヲ縮メシメ又ハ土候ヲ懐柔シテ其ノ保護下ニ置キタルモノニシテ之等ノ統テ一九〇九年以来既ニ英國ノ支配ヲ受クルニ至リシモノナリ。

斯クシテ英國人ノ渡来ハ非常ナル勢ヲ以テ進ミ欧米人中ノ大部分ハ英國人ナリ

トニフモ大過ナシ。

三、英領馬来ノ外國人移民ニ対スル

方針

英領馬来ノ外國人移民ニ対スル方針ハ

第一内地人移民ノ部ニ於テ述ベタルガ如

ク多少ノ制限ヲ設ケ、ニ属ルニ過ギズ、

大体ニ於テ支那人ノ渡航ヲモ認ム。

三、外國各政府ノ移民奨励方針

外國各政府ノ移民奨励方針ニ就テハ資

料得難クシテ詳カニスルコトヲ得ズ。

現在依然トシテ各国人ノ渡航ヲ見ツヽア

リ。

各国共相当ノ奨励ヲナシテオルモノト

想像セラル。

四、移民企業者ノ移民ニ対スル保護

不明

五、移民ノ現況

移住地ノ種類ノ人口ノ部ニ於テ記セルガ如ク、馬来系種族人口一、六五一、〇五一人ナルニ対シ、支那人一、一七四、七七七人ニシテ其ノ数ハ正ニ馬来人ニ匹敵シ外国移民中最多数ヲ占ム。次ギ一、六六六人ナリ。欧米人ハ渡来ノ厂史ハ

相当古キモ一四、九五四人ニ過ギズ。其ノ中英國人一三、一八八人ヲ占ムルモ支那人及印度人ノ数ニ比較スレバ極メテ少数ナリ。

之ヲ地方別ニ見レバ支那人及印度人ハ何レノ地方ニモ分散シテ居ルニ対シ、欧米人ハ特ニ海峡植民地ニ多ク馬来非聯邦ニ

ニ最モ少シ。

即チ支那人及印度人ノ移民ハ英領馬来人口増加ノ最大原因ヲナシ居リ、之等移民ハ海峡植民地諸港ヨリ入國シ右ノ様ニ各地ニ分散ス。

今英領馬来ニ出入シタル移民ヲ示セバ左ノ如シ

人種別	一九二九年		一九三〇年	
	移入民	移出民	移入民	移出民
欧洲人	一九、〇六三	一六、〇〇三	二二、三五六	二一、三六〇
欧亜混血児	四六三	四〇〇	四六〇	二九二
日本人	二、五一五	二、二〇〇	二、六六八	二、一八〇
支那人	三八八、三〇五	二九九、五一一	三九五、四七九	二八五、六六八
馬来人	七九、九三一	八二、四一〇	七八、四〇九	七一、七六六
北部印度人	二〇、〇三〇	一八、三二〇	二一、六五四	一一、六二四
南部印度人	五二、八三一	六七、八〇九	六七、九九三	六六、三六九
其他	三、五八三	三、四六四	三、一一七	三、六三七
合計	五六六、七三一	四八四、一一六	五九二、一四六	四六二、〇二六

（南洋年鑑ヨリ）

而シテ英領馬来ニ移住セルモノノ中

支那人及印度人ヲ除ク外國人ハ前掲表

示ノ通リ海峡植民ニ最モ多ク面積量又

亦大ナル馬来聯邦ニ最モ少シ。

然ルニ支那人及印度人ハ寧ロ之ト趣

ヲ異ニシ馬来聯邦ニ最モ多ク馬来非聯

邦ニ少シ。

(二) 支那人

支邦人ハ卸取引商、小賣商、労働者、ノ一大部分ヲ占メ、市街地ニ於ケル最モ優勢ナル人種ナリ。海峽植民地ニテ支那人ハ他ノ如何ナル人種ニ比較シテモ数倍ノ数ヲ保ツ。馬来聯邦ニテハ錫山ニ於ケル労働者カ殆ント皆支那人ヲアル関係上、彼等

ノ数ハ馬来人ノ数ニ匹敵ス。英領馬来ニ於ケル支那人ハ殆ンド皆福建・廣東・潮州・客家・海南ノ五種屬ノ何レカニ屬ス。

福建人ハ主ニ農業ヲ営ミ、小商人、大取引商ノ多数ハ彼等ノ同族カラナル。

廣東人ハ錫業ニ従事スル人口ノ大部分ヲ占メ栽培業ニ従事スルモノモ尠カラズ。

客家ハ広東人ト同ジク馬来聯邦ニ於ケル錫鉱山労働者ノ大多数ヲ供給シ、海南島人ハ市街地ニ於テハ主トシテ家庭ニ於ケル使用人トシテ働キ市街地外デハ護謨園ニ労働ス。

英領馬来ノ住ノ支那人中福建人ヲ最モ多ク広東人、及客家之ニ亜ギ他ハ少数ナリ。

(二) 印度人

市街地ニ於ケル小売商人・取引商人中ニ
ハ相当数ノ南部印度人アリ。併シ英領原
来ニ移住スルタミール人・テルグ人・マ
ラヤリ人ノ大部分ハ苦力階級ナリ。彼等
ハベラ州ノ錫鉱山ニ多数住居シ、土木局及
市ニ使役セラレ居ル労働者ハ殆ンド全部
南部印度人、中ヨリ募集セラル。併シ此ノ
南部印度人労働者ヲ原来半島ニ齎シタ最
モ主ナル原因ハ護謨栽培事業ニシテ現今
ニ於テハ英領原来農園生活者総数ノ大九・
三%ハ南部印度人ナリ。

(三) 欧米人

一九二一年ノ國勢調査ニ於ケル英國馬レ
来ノ人口ハ十年前ニ比シ三四・九%ノ増加
ナリキ。之ハ欧洲戦争ト之ニ伴フ商業等
ノ不振ガ無カリセバ、一層大ナリシヤモ計
ラレズ。之等ノ増加ハ主トシテ護謨事業
ノ発達ニ起因スルモノナルモ官吏ノ増加
モソノ一因ナリ。在留欧米人中其ノ八四
%ハ英人ニシテ、欧洲人ハ海峡植民地ニ於
テハ金融ト商業・馬来聯邦及同非聯邦ニテ
ハ栽培事業ニ従事ス。

六、移民事業ニ要シタル経費

不明。

七、将来ノ移民ノ餘地

外國人ガ將來英領馬來ニ移民スル餘地アリヤ否ヤハ本邦人ノ命ニ於テ逐ベタトコロニ依リテ大体明瞭ナルモ、地理的関係、民族的関係、現在移民ノ構成其ノ他諸関係ヨリ考察スレバ結局支那人ノ移民余地多ヲ大ナルモノアルモノト思ハレ、本邦人移民事業ニトリ敢カラヌ障碍トナルモノト想像セラル。

然レトモ英領馬來ニ於テハ外國人移民入國制限令ヲ公布セルヲ以テ之ガ相当ノ

制限ヲ課スル。タメニ又本邦人移民ノ自覚並ニ政府ノ方針宜シキヲ得レバ、却ツテ之ヲ労力供給者トシテ大イニ利用スルコトハ決シテ難事ナラズ。

参考資料

一、南洋年鑑　臺湾總督府

二、移民及企事ニ関スル各國ノ制度概要　拓務省

三、厦米半島ニ於ケル邦人経済事情　台湾総督府

四、昭和八年拓務統計　拓務省

五、昭和五年在外本邦人國勢調査報告、　外務省

六、南洋栽培企業比較論　南洋協会

七、英領馬來ケマンタン州事情其ノ一及其ノ二　華南銀行

八、英領馬來トレンガヌ州事情　〃

九、英領馬來事情　南洋協會

一〇、移民情報　外務省
第四巻・第五巻・第六巻

一一、拓務要覧　拓務省

一二、南洋協会雑誌　南洋協会

英領北ボルネオ

目次

第二章　各地ノ移植民
第七節　南洋ノ移植民
第三項　英領北「ボルネオ」
第一　移住地ノ概観
一、土地
(一)　位置
(二)　地勢
(三)　土壌

五　二　一　一　一丁

二、氣候　六
(一)氣溫　七
(二)雨量　九
(三)風位　一〇
三、住民　一四
(一)人口　一四
(二)住民　一七
(三)言語　一八
(四)教育　一八
(五)衛生　二〇
四、歷史　二五
五、政治　二九
六、產業　三一
(一)農業　三一
(イ)護謨　三二

(ロ) 煙草
(ハ) 古々椰子
(ニ) 米
(ホ)「サゴ」
(ヘ)「カツチ」
(ト)「ダマール」
(チ) 其ノ他ノ農作物
(リ) 生産物ノ市場關係
(ニ) 林業
(三) 鑛業
(四) 水産業
(五) 牧畜業
(六) 企業上ノ傾向ト特質
七、貿易

第二、移民ノ沿革

一、内地人移民

二、本島人移民

三、外國人移民

第三、北ボルネオ政府ノ移民ニ対スル方針

第四、日本政府ノ移民奨勵方針

第五、移民企業者保護

一、内地人移民

二、本島人移民

三、外國人移民

第六、移民ノ現況

一、内地人移民

二、本島人移民
三、外國人移民
第七、移民事業ニ要スル經費　八九
第八、將來移民ノ餘地　九〇

第三項　英領北ボルネオ

第一　移住地ノ梗概

一　土地

(一)位置

南洋ノ大島タル「ボルネオ」島ノ北東部地方即チ東経一一五度二〇分ヨリ一一九度二〇分、北緯四度一〇分ヨリ七度二〇分ノ間

ニアル不規則ナル略々四角形ノ地域ヲ毋
島トシ、別ニ「バンカイ」島「バランバンガン」島
及「シブトン」島並「セバテイク」島ノ北半ヲ併
有シ其ノ面積ハ約七五、五八六平方粁ニシテ我
ガ國ノ北海道ヨリ稍狭キモ海岸ノ出入ハ
「ボルネオ」島ノ他ノ地方ニ比シ比較的多ク、
海岸線ハ一、二九〇粁ニ達ス、而シテ其ノ周
圍ハ東ハ「セレベス」海、北ハ「スール」海、西ハ
支那海ニ面シ南ハ蘭領「ボルネオ」及英領「ブ
ルネイ」ニ接ス。

二 地勢

概シテ山地又ハ高地ニシテ平野ハ僅カニ
海岸ノ低地、河川ノ流域ニ見ルノミナリ
「ボルネオ」諸河ノ分水嶺ヲナス山脈ハ國ノ

中央ヨリ稍々西方ヲ縦ニ東北ヨリ西南ニ
貫通スル「キナバル」山系、「クローカ」山脈、「ハー
ウード」山脈ニシテ之ヨリ幾多ノ支脈ガ東
西ニ走ル、是等山脈中「キナバル」山脈ハ其
ノ最モ大ナルモノニシテ西海岸ト約五十
粁ノ距離ヲ保チテ之ニ沿ヒテ南西ニ走リ
其ノ主峯ヲナス「キナバル」山ハ「ボルネオ」ノ
最高峰ニシテ標高四、一〇二米ニ達ス。

河川ハ何レモ是等山脈ニ其ノ源ヲ發スル
モ、西部ニ於テハ山脈ガ海岸ニ近接セルヲ
以テ日地方ノ河川ハ船ンド細流ニシテ
ソノ中間ヲ通過スルヲ以テ比較的大河ナ
ルガ舟楫ノ便アルモノハ極メテ稀ナリ
東部ノ山脈ハ長ク東西ニ横ハリ河川ハ其

河川中最モ大ナルモノハ「サンダカン」ノ東ニ注グ「キナバタンガン」河ニシテ「モーター」ニテ河口ヨリ百哩以上ヲ遡航スルコトヲ得、両岸ニハ広大ナル農耕適地ヲ有ス。之ニ次ギ「スガマ」河、「スグト」河、「ラボ」河等アリ何レモ東北海岸ニ注ゲ、其ノ北海岸ニ入ルモノニ「マルドウ」河、「ボンゴン」河ノ二河、東海岸ニ入ルモノニ「クンボン」及「カラバカン」ノ二河アルモ何レモ小河ニ過ギズ。

西海岸ニハ「バダス」河、「タンパス」河、「パパール」河、「アンボン」河等アリ其ノ中「バダス」河稍大ニシテ「ブルネイ」湾ニ注グ而シテ是等河川ノ流域ハ概シテ地味肥沃ノ平地ニシテ、東海岸ノ平地ハ西海岸ノ平地ニ比シ一層

地味肥エ良ク農耕ニ適ス、

(三) 土壌

当領ヲ四區ニ分チテ各地ノ土壌ニツキ概説ス

(イ) 丘、岡、地、概シテ西部地方ニ多ク、時ニ分解サレタ酸化石灰岩ヲ含有スルコトアレド多クハ若キ粘板岩ノ分解セルモノニ依テ形成サレ粗砂ヲ混交セザル爲護謨ノ栽培ニ適ス。

(ロ) 平、地、「サンダカン」地方、東海岸地方及「ゼツセルトン」ヲ中心トシテ其ノ南北ニ拡ガル地方ニ多ク沖積性ノ土壌ニシテ寧ロ粘性ナルモ排水ヲ充分ニナセバ極メテ良好ナル畑地トナリ、殊ニ河岸ニ於ケル平地ハ

有機物ノ含有量多ク土壌ハ黒褐色ヲ呈シ
米作、珈琲、果樹、煙草等ノ栽培ハ多クコノ土
地ニ行ハル
(八)濕地、甚ダシク海岸ニ近接セル地方又
ハ河岸ニ多ク一般ニ泥炭地ニシテ酸性度
強キ爲普通植物ノ栽培ニ適セサルモ「マン
グローブ」樹ハ多ク是等ノ土地ニ栽培セラ
レル。
(二)砂地、海岸附近ハ概ネ砂土ヲ以テ蔽ハ
レ一般農耕地トシテ利用スルニハ殆ン
ド不可能ナルモ古ノ椰子ノ栽培地トシテ
仔適ニシテ現在古々椰子ノ多クハコノ土
地ニ栽培セラル。

二、氣候

英領北「ボルネオ」ハ軍ニ熱帶圏内ニ在ルト
イフノミニテ一般ニ甚ダ不健康地ノ如ク
推測セラルルモ事実ハ然ラズ勿論其ノ気
候ハ熱帶的ニシテ四時ノ変化ナク寒暑ノ
差ナキヲ以テ特徴トスルモ気温、降雨、風位
等ノ自然現象ハ適度ニ海風ヲ送リ又殆ン
ド毎日ノ如ク驟雨ヲ斉ラシ暑気ヲ和グル

為其ノ気候ハ熱帶地トシテハ温和ニシテ
普通健康体ノモノナラバ堪エ難キ苦痛ヲ
感ズル如キコトナシ、

(一)氣温

周年平均入ヵ度前後ニシテ温度ノ昇降一
年ヲ通ジテ大差ナク七ヵ度以下ニ降ルコ
ト稀ニシテ又九ヵ度以上ニ昇ルコトモ比